

第6回(仮称)市民活動推進条例検討会 記録

➤ 日時・場所

平成 28 年 7 月 23 日(土)9:00～11:00 823 会議室

➤ ワーク・発表まとめ

【目的】

- ・この条例は「協働」だけを目的としているわけではなく、市民活動と協働の両方の支援が目的。行政ができないことを市民活動がやる。「協働」だけが目的ではないということから、市民、行政にとっての理念。
- ・寄り添っていくこと、団体への寄り添いも必要。市民活動を応援するのも目的の一つ。
- ・実践した市民社会を創っていくことが大きな目的
- ・意識を共有するような作り方なのか、単語作りをしていくのか、支援策を盛り込む条例にしていくのか。支援策については考え方なのか、環境づくりなのか、色々出てきた意見をこちらに置いておいて、条例の中でこういうこともやっていこうという作りにしていくのか、どこをメイン持っていったって作っていくのか。
- ・条例自体は理念や目的であるが、条例自体の価値も示せると良い。この条例ではこんなことが出来るようになる、など条例の目的より、条例が何を生み出すか、この条例で何が出来ようになるか、この条例でどう街を良くしていくのか市民目線で表現できると良い。
- ・出来ることを表現することにより、やる気を促す。その気にさせる。
- ・職員を市民活動に参加させようとしても地方公務員法の規制があって難しい。でも実際に経験しないと分からないことがあるので、若い職員にはぜひ色々な経験をしてもらいたいという希望がある。この条例でそういったことを後押ししてくれものになると良い。
- ・何が課題なのか、誰を対象に向けて条例を出すのか、目的がはっきりするのではないと思う。
- ・参画を目的とした協働条例。「蓄積」と関係しているように思う。参加や参画は一個人が出来ること。参画はそれなりの責任もあると思う。「協働」は一個人ではなくグループでやる。「協働」まで来るとそこまで勝手なことは言えなくなる。個人か、団体かどちらを目指すのか、それによっても異なる。
- ・協働でやっているとは責任はあるので、公園内で来園者からの苦情への対応は行政と同じ感覚になり、解決策を模索する。でもそれをやりつつ、自分達本来の理念は曲げない。ここまでくるのは良いのだけれど、全てがここまで来なくても良いと思う。
- ・育てることは大切で、育ってきているものを行政が潰すようなことはしないでほしい。年数も掛かるとは思う。10年、20年やってきてからここまでできる。長い目で見ていくことも必要。途中エラーがあっても皆で育てていくことは必要。
- ・ここまでやってきたけれど、市民活動もなかなかうまくいかないこともある。だからこの条例が出来た、ということがあっても良いのでは。

【基本理念】

- お互いに尊重して信頼すること。市民と行政で対等というのにはあり得ないと思っている。違いがある。責任感も違いがある。その違いを認めて尊重して信頼することが大切。対等と言ってしまうから、おかしくなると感じる。
- 「対等」についていかなものかという意見や、条例の主体を「私たち～」にするなどの意見について。作る立場としては誰を主にして作るかを整理しておいてもらえると助かる。また他のキーワードもそういう視点に立って作っていただけるかと思う。
- 他市は、市が作ったり、対等な立場で作っているのが一般的だと思うが、鯖江のように市民が作ったような組み立てにしておく、その後の使い方が変わってくるのではないかと思う。
- 法律的に見て、「議会」も入れても良いと思う。民主主義の場合、議会は立法府で市民の意見を吸い上げる所だが、出来ていない部分もあったりする。
- キーワードには「鎌倉らしさ」を入れてほしい。「鎌倉らしさ」とは人それぞれに思うことがあるので、それは特に規制しなくても「鎌倉だから出来る」ことが色々ある。
- フラットであること。上下関係はないという意味。
- 「魅力と活力」は入れたい。
- 「協働」と言っても普通の人は分かりにくい。言い換えて分かりやすい言葉にしてはどうか。「手を取り合って行政と市民がつくり上げていく」という表現が分かりやすい。
市民が何かやってみたいというのをつくり上げていくのが「協働」。
- 子どもも大人も皆でつくり上げる。誰かが作るのではなく、みんなの気持ちが必要。
- 夢と希望。
- 市民活動は何の為にやるかという、色々な課題があるからやるもの。まずは地域課題への気づきが大切。
- 誰もが自分らしく暮らせる街とは、住みよい街。
- 地域社会や社会課題への気づきもあり、モノや環境もあるが、人の場合はその問題にある人を中心にして考えないと方向性がズレてくることもあるので注意が必要。
- 鎌倉らしさでは歴史、伝統への敬意。新しい価値の創造もプラスアルファ。
- 全てオープンになっていることは非常に重要。
- 団体同士のネットワークも必要。でもアクションしていくことが大事。
- 課題の当事者もまた支える側に回れることもある。支え合いも出来てくると良い。
- 双方向性は大事。市民がやりたいことに行政が応えていくことと、市がやる気のない市民に呼び掛けていくこと、その両方から投げかけていく双方向性が必要。
- 市民は、行政は、事業者は、と書かれているが、市民は一個人、行政は一つの団体組織、事業者も団体組織、NPOも団体、でも理念について考えるのは本来、個人であると思う。
- 市民だけが個人であとは全部団体。何となく表現上、自分事になりにくのではないかと思う。他人事になりやすい。市民は「市民一人一人が」「市民みんなが」、「私たち一人一人が」と表現し、市は「職員」にしたい。「職員一人一人が考えて」と表現したい。
- 職員だけに責任を帰属させたいわけではない。責任は市民一人一人にもあるもの。
そういう意味での対等性であれば、市は職員である。事業者も社員とかそれに準ずる表現にす

ればよい。

- ・市民も柔らかな言葉で個人一人一人を表現できると良い。
- ・シンポジウムで「他人事」を「自分事」にして考えること、そういう呼びかけは大事という話が出ていた。「私自身」、「あなた自身」に置き換える表現。
- ・言葉尻は重要。「市民」と言われれば、自分のことで、「市」と言われれば職員のことと分かっていても、どこか他人事。むしろ「市民」の個所に自分の名前を入れられると自分の事として捉えられる。「市民」と言われて即自分の事を思えることは少ないので、なるべく多くの人に即自分の事と思ってもらえる表現が良いと思う。
- ・育てる理念がちゃんと書かれていてほしい。
- ・「自治町内会」も主体者に入れても良いのではないか。
- ・誰もが身近なものとして受けとめ、自分達の暮らしを守る、災害から地域を守る、ということも盛り込むと身近に感じることができるのでは。
- ・ボランティアをやっている人とやってない人で意識が全く違う。やってない人はやってる人をどうしてやっているのだろう？と思い、やってる人はやってない人をどうしてやらないのだろう？と思い、両者に溝がある。
- ・災害や犯罪があって初めて分かる。そういうことも含めて出来れば良いかと思う。
- ・鎌倉の市民はなかなか動かないけれど、いい意味で動けない代わりにお金の支援をしてくれる人がいる。そういう人が居るのは他の街ではあまりないのかなと思う。そういう人も市民活動に参加しているという位置づけとなるものにしたい。
- ・目的や理念の「市民」の前に「鎌倉」を入れて「鎌倉市民」としてはどうか。自分たちの問題として具体性が出てくるのではないか。
- ・鯖江も「夢と希望の持てる鯖江」としている。そうすることで自分たちのもの、自分たちのことという思いになる。
- ・「市民」が昔はいい言葉だったが、今は固い言葉になっている。時代に当てはまらない言葉になってきている。中身はそんなに変わらないが、今に合った良い言葉が必要。
- ・市が生き物と見た場合、常に希望に満ちた明るい未来だけが待っているわけではなく、様々な困難や災害に遭遇した時、まちは皆で守り、困った人はみんなで助け合いましょうということ。公助だけでなく、自助、本当の意味での地域力が必要。
- ・困ったときも、一致団結して、鎌倉は鎌倉みんなで頑張りましょうというような言葉があっても良いのではないか。
- ・本気で考えているのだというところを入れたい。震災は大きなきっかけになった。地震はどこにでもあり得る、他人事ではない。
- ・平和で安穏とできる状態だからこそ、想像力で危機状態を想定し、どうするかを考えることは大事。想像力豊かな市民をつくる。他人の気持ちになれるかも想像力。
- ・思いやり、気配り、心配り。相手の立場で物事を考えることがその時その時で即出来るか。
- ・創造。イメージもあるが、クリエイティブ、ないものを創り出していくということも大事。
- ・条例が出来たあとのことを考えて、1人1人が自分事として捉えることができる目的があると良い。

- ・環境を作っていく意味で、やりたいと思ったことを出来るまち。
- ・行政、市民という立場を越えての一体感が大事
- ・行政の職員の視点から、行政の職員の姿勢を第一に示す条例であってほしい。
- ・自分達の市のことを外注するのは後にして、まずは自分たちで考えよう。というのを第一にしたい。
- ・若い人達の間でやる気のある人が出てきた時に、その人が単独でやるのではなく、みんなでサポートしていく、力を結集していくことが必要。
- ・一団体に任せたのだから、そこができればお終いではなく、出来ない部分を他で支え合って、補い合ってできるように出てきた目をみんなで支える。そういった体制を条例に組み込んでほしい。最初から完璧にできる団体が出てくることはないから。
- ・「市民」と「住民」との違いについて、「市民」とは鎌倉に住んでいる人だけなのか、その境界に住んでいる人はどうなるかという議論があったが、そこを議論しても仕方がなく、一般的に「市民」は鎌倉市在住、プラスアルファ周辺くらいで良いのではないかな。
- ・一人一人が担えることに参加しよう。応援するも含めてすべての市民が街づくり参加する。そのことで市民が輝きたい。市民が輝きたい街づくりをしたい。直接参加できない人、市も含めて参加者の活動を応援しようということを組み込んでほしい。
- ・「育つ育てる」がキーワードとして印象に残っていて、町や団体の土壌作りを含め、役所の職員も含めて、育つことが大切。
- ・「自分事」ではあるが、それぞれ役割が違うので、きちんと規程する必要がある。立場に応じて役割も変わる。社会状況によっても変わる。なので「変わることをできる」ような条例が良いと思う。
- ・みんなが輝くための条例。ある程度、評価を明らかにして、「褒める」ことも必要なので、きちんと評価して「褒める」ことを盛り込めると良い。
- ・市が間違わない。というのがあるが、皆間違えることもある。だからトライ&エラーできるものがあると良い。
- ・町内会は地域のつながり推進課であるが、町内会がまちづくり市民団体としてまちづくり政策課で登録しているところもある。
- ・「まちづくり条例」は平成7年に条例が作られている。時代が変化しているので合わなくなっているところがあるのでは。条例は古いものもあり続けるけれど、なかなか改正されないし、改正するほどでもないというものもある。目的や理念を変えようとするとその条例の根幹を揺るがすことになってしまう。
- ・今個別にある条例を含めるような条例を作るのがいいのかも。または具体的にこの理念は鎌倉市が行う施策を行う上で反映させるものとするというようなことを入れても良い。
- ・今までの市民の活動の蓄積の上にあるから、在り方も他の市と違って良いはずなのに、いつもどこかの真似をして作っている。
- ・全体を見渡してこういうものを作っていきたいからといって固めていくやり方のもではなく、今回は市民から湧きあがったものでどう形作っていくか、拾っていくか、というやり方を取っているのではないかなと思う。

- ・みんなが「自分事」だと思って欲しい、そういった条例を作りたい。
- ・「自分事」という言葉がしっくりしない。自分の事と思わなければみんな真剣にならないのか、今の若い人はそういうものなのだろうか？と。生きていくということはいつも自分のことだけではなく、他人のことも考えながらやっているのに、何故、他人事を自分事にしなくてはならないのか理解しにくい。他人は自分とは全く違うから、しっくりしない。
- ・「自分事」を当事者と表現する。当事者というと色々な課題がある中でそれに関わっている人だけの問題と考えるけれど、例えば障害者支援の人は、自分は障害者ではないけれど、この障害に関わってこの障害者の人が生きやすくなるようにもっていくという時、支援者も広い意味で当事者の範囲に入って使っている。「自分事」もそういうことなのかな？と思っていた。
- ・自分の事に関わっているは誰かが考えることであって自分が考えることとしていない。自分は文句を言うだけ。でもどうしたいかなど、自分がそこに関わった時に「自分事」となると思っている。
- ・「自分事」の使っている意味は分かるが、それを「自分事」という言葉として表現することにしっくりとこない。でもこれからの人達が「自分事」という表現を使うことが一番分かりやすいというのであれば良いのではないかと思う。
- ・「自分事」の言葉が若い人の感覚でいう所の意味と一致しない人もいるのでは。そういう捉え方をする人もいるのなら、やはり「自分事」という表現については考え直した方が良いのではないか。
- ・「自分事」という言葉は今流行っているが、鯖江は「主体的な」というようなオーソドックスな言葉を使っている。「自分達のまちは自分達でつくる」という表現を用いている。こういう違和感があるというのはとても大事な意見。
- ・「自分達のことは自分達が担う」当たり前のことで分かりやすいが、当たり前の感覚が薄れてしまっている。だから行政にどんどん皆が依存してしまっている。昔は自助公助などと言わなくても自分達の村、まちという単位でやっていた。
- ・この条例を作る要望はどこから上がってきたのか？市民活動団体や議員から挙がってきた。
- ・行政の役割をしっかりとってもらわないと、と思う。行政が動きやすいようにしてあげるのも必要。正職員が少ないという現状もあるのではないかとと思うが、それを言い出すときりがないし、踏み込めない。
- ・行政、財政のスリム化をすることによって、市の職員が働きにくい状況になるのが良いことなのか疑問。アルバイトは5時に帰って正職員が夜10時まで働かなくてはならない現状で正職員の負担が増大する一方。
- ・市民が主役になっていくというと誰でも文句が言えると思って、この「自分事」というと住民が個人的なことばかりを言い出すのではないかという懸念がある。自分のことだけ考えて文句を言い出すのではないか。
- ・モンスターが多くなり、その対応で行政職員が疲れてしまった、肝心なことが出来なくなっているのではないかと思う。
- ・そういう勝手市民が、モンスターでなくなりほしくない。益々輝いてしまうのではないかと心配する。

- ・市民にも意見を持ってもらうことはあるべき姿ではあるが、だからこそ自分はどのような責任を負うのですか？ということ問うのは鯖江はうまいと思う。押しつける感じではないのが良い。
- ・「これまでの蓄積」についても一度きちんとした言葉にしておく方が良いのではないかと。皆さん既に活動をされているので、「これまでの蓄積」とは当たり前のように使い、思っていることだとは思いますが、一般市民からすると当たり前ではないから。
- ・「市民」とは地域住民に近い、色んな要素があり、自由に動けることが重要かも。
- ・行政はできない、でも市民活動ならできるこれが「協働」。鎌倉市民ではない東京の人も毎週末だけ参加ということもある。富山や北海道の人も賛助会員とし、そういうことで会も成り立っていたりもする。こういうことはNPOでなければ得難い。鎌倉在住でなくても市民と言えば「市民」。
- ・行政にとって、市民と協働するとこんなに楽しいということを打ち出す。
- ・行政は喧嘩ができないが、市民活動の場合、喧嘩もできるが、クレームではなく提案としての言い方をしてくれる。
- ・鎌倉は条例がなくても既に色んな活動がされているので、もっと良くしていくための提案が出来るようなものがある。
- ・知っている人達の間だけで話し合っても変わっていかないから、もっと広く意見や提案が出てくることによってより良いものになる。
- ・行政が応援していますよ、というだけで信頼度が上がる。
- ・行政はこんなことをしています、ではなく市民活動でこんなことをしているので、皆さんも出来ますということを書いてほしい。
- ・成功も失敗ももっと広く知ってもらいたい。条例でそれをどうやって出していくか。
- ・市民個人を言ってしまうと、ただの勝手市民が多くなるようなことにはしたくない。
- ・市民がまとまった力でもって、自分達が色んな試練を受けつつ、耐えつつ、そういう市民活動でないと意味がない。
- ・市民活動がたくさんあるがそれが繋がっていない。
- ・個々の活動で手一杯となっている現状を改善するためにも他と繋がる。
- ・既に色んな団体がある鎌倉だからこそ、繋いで展開していくことができる。
- ・数人の人が、数年間するというのもありだと思うが、継続することも重要。10年先、20先を見越して考えていく。その後のことは知らないではどうだろう。信用がない。
- ・失敗を恐れず、怖がらずにやろう。
- ・トライ&エラーではなく、トライ&トライ。
- ・失敗すると苦情も多くなる。
- ・始めたばかりの市民団体を他の市民団体が支援することがあると良い。市民活動支援事業というものも必要。
- ・環境があれば能力がある人達は勝手に育つ。
- ・一人一人というより人が集まってするということが大切。
- ・繋がるだけで充分なのか？繋げるだけでもいいかもしれないし、こういう課題はこうすれば良いとか、けしかけるだけでもいい。

- ・社協の場合は繋がるだけでは足りなくて、結果まで反映してフィードバックすることが求められる。
- ・社協のように最後まで繋げるという発想がなければ、実際には繋げていけない。
- ・主語を誰にするか。「市民が」と書かれていると自分事として捉えることは難しいのではないかな。
また「市」と書かれていると誰の事を指しているのか分からない。
- ・市＝職員一人一人に置き換えた方が分かりやすいのではないかな。
- ・条例があってもそれを読む人は少ないので、皆が読めるにはどうしたら良いかな？対象者がコミュニティに合った伝え方ができれば良いのではないかな。高齢者に対してならば高齢者向けの表現、子どもなら子供向けの表現。
- ・チェックする機能も必要。市民の動き、事業者の動き、行政の動きを客観的にチェックする。
それがこのメンバーではないかな。
- ・市民活動はやりたいからやるより、ニーズにマッチした形でしていくことが必要ではないかな。
当事者の気持ちになったり、気配り、心配りなど、相手の立場に立つことが重要。
- ・相手の立場に立つとは想像力、イメージと同時にサポートできる体制がなければならないので
創造力も重要。
- ・自治町内会は市民活動の原点。
- ・災害が起きたときには自治体に取り組んでいく。その中に市民活動団体が入っていくケースもある。
色んな人達が協力し合いながら取り組んでいく。
- ・裏テーマとして、条例は職員が動きやすくするために、それを確立するためのものではないかな。
- ・市民からだけでなく、行政からも言い合える。双方向の関係性が重要。議会や議員もそれに入る。
- ・NPOセンターが出来た当時はトップランナーであったけれど、今は周回遅れである。最初だったということを生かそうという意味で、今までの蓄積を発展させるという位置付けはどうだろうか？
考え方として、そういうものを踏まえてやっていったらいいのではないかな。
- ・今止まってしまったこと、混沌としたことをどう打開していくか考えていくのも必要。
- ・誰もが担い手になれるという思いもこの条例に入れていってもらいたい。
- ・「市民が主役」「自分事」が今時ワードなので、先を見据えて作るというのであれば、言葉をも
う少し見直して作りたい。
- ・上の世代ほど、「自分事」の捉え方にしっくりこないものがあるという話を聞いた。もう少しみんながしっくりくる言葉は何なのだろうか。
- ・鎌倉の「まちづくり条例」は鎌倉市が見た防災的な意味合いがあったり、計画的に見た位置づけについてのものだが、この条例は身近な所の市民がすることだから、利用者であったり、目的であったり、対象者がどう思うかなど市民の意見を吸い上げて行って、そのためにはどうやっていくのか。
- ・この条例は、上から行政的な見方ではなく、市民がどういう風にやるのか、どういう力が必要かという視点からつくる。
- ・活動を手助けしたり、やりやすくしたりするものであってほしい。一つの事業が出てきた時に
皆が力を合わせてサポートしていくのが当たり前。「その団体では出来ない」で終わってしまう

のではなく、出てきた芽をどうやって育てていくか。協力をしてもらえる体制作り、協力するのは当たり前だという位置づけを市民活動について与えてほしい。

- ・完璧を期してからでは時期を逸してしまう。皆で問題を共有することが大事。
- ・「トライ&エラー」で置き換えるという意見も出てきているが、エラーと言ってしまうとどうなのだろう？エラーを出した人がまたすぐトライできる。常にトライできるという意味合いで「トライ&トライ」。エラーは次のトライに生かせるものだから。
- ・皆で育てていくということは、反省があつてそれを次に生かし、それが繰り返され育っていくものである。そういう意味合いの言葉が出てくると良いと思う。そうやって活動している人達が、輝けるまちに繋がると思う。
- ・鎌倉を誇れる街にしたい。

【鎌倉らしさ】

- ・鎌倉らしさについて、旧鎌倉のことを言うのか？雪ノ下辺りを旧鎌倉と呼ぶが、山を越えたら鎌倉市大船町と呼ぶ。それが市町村合併して今の鎌倉市となった経緯がある。
- ・大船は田んぼが多くて、元々湿地帯であった。大きな山を崩して今の太田駅辺りが出来た。田園都市計画であった。
- ・鎌倉らしさを規程するのではなく、一人一人の思う鎌倉らしさがあっても良いのではないかな。
- ・鎌倉らしさと言うと旧鎌倉をイメージする人が多いのではないかな。
- ・鎌倉らしさはみんなをつなぐ言葉であつて、時代と共に変わっていくものでもある。それもアップデートしていても良いのかも。
- ・あなたは鎌倉のどこが好きですか、ということが個々にとっての鎌倉らしさではないかな。
- ・好きな鎌倉像があつて、そこをもっと好きになれるような条例。
- ・熊本の震災時にボランティアで行ったとき鎌倉の人がきてくれたことに喜ばれた。熊本も武家の街で昔は武士のまち鎌倉を目指して頑張っていた時期があつたという時代背景もあり余計に喜んでもらった。地方の人にとって鎌倉って特別な存在でもある。
- ・大船でも腰越でも関係なく鎌倉と認識されている。
- ・エネルギーとしての鎌倉プライド。だからこそ良くしたい。
- ・鎌倉らしさとは、それぞれの心にあるものとして敢えて定義しない。と同時にそれぞれがそれを表明して、共感できる鎌倉らしさを広げて、自分で認める。
- ・共感が結束力を出す源。みんなの持つ鎌倉らしさを出し合つて、共有して、初めて意味がある。
- ・鎌倉らしさとは、個々によって違う。その人の視点で取れられて良いのではないかな。
- ・鎌倉スピリット、皆を繋ぐ言葉としての鎌倉らしさ。共通の言葉が良いのではないかな。

【前文】

- ・条例提案は普通、市長がするものだが、議員、市民からの提案もできるので、この条例は市長、議員、市民の三者が協働して提案できる動機づけとなる前文なり、姿勢が示せないかな。そうすることで行政職員、議員の姿勢を示すことになるのではないかなと思う。

【協働】

- ・今までやってきている「協働」を続けていくことも大切なので、「継続」ということも入れたい。
- ・「協働」も前面に出してほしい。だが「協働」に違和感がある人もいる。過去に「協働」に関わったことがないのでちょっと引かかるところはある。
- ・「協働」についての扱い方。「協働」はあいまいな概念となっている。市の第2次か、第3次かのどこかに「協働」と出てきていながら、市の職員の中に「協働」の理念がない。「協働」施策を地域のつながり課で投げてもしこの課からも出てこない。
- ・「協働」という言葉はこれで良いとは思わないし、これで良いのかという疑問もあるが、それに代わる良い言葉が今は思いつかない。それを表現するものが必要。
- ・「協働」の先にあるものは何か？この先の展開が予想できれば言葉や定義みたいなものが出てくるようにも思う。
- ・今の「協働」のあいまいな所が実は良いと思えることもある。

【条例の周知】

- ・この条例が出来たらどういう発表の仕方をするのか？広報だけではなく、市長が Youtube で発表とか、お祭りのようにして発表したい。
- ・条例を一条ずつ世代の異なった人に読んでもらう。10代、20代、30代・・・として発表していくと自分達のこととして受けとめられるように繋がるのではないかな。
- ・今までのように「議会で条例が承認され、制定した」ことをつらつらと書かれてもほとんどの人が読んでいない。
- ・市民に集まってもらって、要約して説明会をするなどの工夫。市民と密接な条例なので、市民に一番関心を持ってもらいたい。
- ・書かれた文字だけを読むより、目でも見て発表されてるものも聞くという、見て聞いている両方あるのが大事。
- ・出来た条例の伝え方としては、コミュニティに合わせた伝え方が必要。高齢者向け、子ども向けなど、その人に伝わる形で伝える。その人に会った形で届けば意見はもらえるし、力になってくれる。自治町内会にも届ける。
- ・市の条文以外に、「私の条文」として「わたしは」に自分の名前入れるのはどうか。そういったものを別冊として作るのもよいのでは。または広報でそういうものを載せて個々の名前を入れる工夫が出来るものを作るのも一案。

【定義】

- ・NPO と自治会町内会は異なっていて、NPO はやりたいことをやる、自治会町内会はやりたいことも、やりたくないことも絶対にやらなければならない共同体。
- ・自治会町内会とボランティア団体の協力はとても重要。
- ・時代の流れからいうと、自治会町内会は、鎌倉のある意味保守的な良さがあって、ずっと守られてきた。それが色々あって変わってきている。
- ・この先、今自治町内会が担っていることを NPO がやっていくようなそういうシフトがあるか

もしれないと思う。

- ・言葉の定義の中に、「地域」の定義が考えられていない。地域は今の自治会だと自分のまち。市民は？団体はどこを地域と考えるのか？日本全国の場合もあるし、狭い場合もある。
- ・「地域」と使った時どう受け止められるかが疑問。それは考えるきっかけになるといい。

【施策等】

- ・相互提案協働事業の予算の取り方が少しずつ変わってきていて、最初は300万円だったのが、今は150万円。今後条例が出来た後の制度の仕組みは変わるのだろうか。⇒今は何とも言いえないが、幅を広げるように変えていくのではないかな。
- ・鯖江だと市民が事業の中へ入って行って、事業が決まって皆でやる、市から提案があって市民がやる。市からの提案と団体からの提案が残っていく。
- ・鎌倉市では予算がない所にすごい金額の提案をされた団体があり、その提案を受けてくれる担当課がないと実行できない。
- ・行政は一定枠の税金でしかできない。その枠内で行政はどうやって処理をしていくのか。その辺りの考え方が分からないと提案する側も協働と言っても何をどう提案してよいか分からない。この条例の中の支援という部分に組み込んでいくことができれば。
- ・支援の内容を条例に具体的に膨らませていく作り方もある。
- ・理念を作り上げていく段階で支援についても組み込んでいく方法もある。
- ・方法は色々あるけれど、色んなことが混ざり過ぎると条例自体がぼやけてしまう。
- ・気軽に市民と行政が話し合える場。このときの「市民」はすべて含んだ市民。
- ・行政の開放でいうと、市場の開放、規制緩和というが、施策も規制緩和ではなく開放に向かっているのではないかな。開放出来ないのであれば、その理由を行政がきちんと説明できなければならぬのではないかな。「開放」が正しいが、意味的には「解放」も含む。
- ・職員も参加しやすいように開放は必要。
- ・昔の「委託概念」は例えばこの5つをやりなさいだけれど、今は、あなたたちの理念でやっても良いですよ、フィールドがあり、自由度がある。これだけの自由度で管理することは行政には出来ないと言われている。
- ・「下請け」「再委託」することによって業務が細かくなっていくが、今の話からは逆で、範囲が広がっていく感じがする。
- ・「委託」の出し方が昔とは違うと考えれば、「委託」と言おうが「協働」であろうが、結局は中身であり、それぞれのケースだと思う。
- ・指定管理も同じようなところがある。直営から指定管理になって使い勝手が悪いという苦情が散々出てきた。指定管理にすることによって範囲を狭めているが、逆に広げれば良い。
- ・指定管理等への参入団体を限定したとしても、例えば地域の方を必ず関わらせることとするなど、広げるやり方はないだろうか。
- ・指定管理にするとき、今まで行政が担っていたことを代わって指定管理者として行っている所を探している。だから保証できる所、責任を取ってくれる所を評価する。利用者のことは二の次。まず行政と同じレベルの責任、安全、安心があるところを選ぶのが基準。根本的なことが

ズレている。

- ・利用者ありきの施設なのに、誰が使うのか、何をしたいのか、鎌倉はどういう所を育てたいのか、そういうことから入って作ろうとしないから、末端のところがおかしなことになってしまう。
- ・ワークスペース（コピー場など）に人がいるのは、その場で情報交換ができる。
- ・交流の場が必要。そこで軽くお互いに足りない部分を補いあえるような場。
- ・交流の場には情報を受ける人が重要。情報を受けた人が展開できないと広がらない。
- ・育てる事業をピックアップしてやってみることも必要。そういうモデル事業は必要。
- ・取り敢えず試験的にやってみましょうから入ると行政も納得してできる。1年目は実験的にやってみましょう。2年目は実験がうまくいったからやってみましょう。3年目から本格的にやってみましょう。という段階を踏むとうまく運びやすい。
- ・今までやってきたものは良いものであったのに、なかなか芽がでない。認められない。「冒険遊び場」などみんなが認めているのになかなか常設にはならない。その原因の蔵出しの機会を設けることが必要なのではないか。
- ・活動の課題として多くは財政的な問題であるが、人材的なこともある。

【審議会】

- ・市民協働は、価値観を共有したり、みんなで問題を共有するところから始まる。皆で共有する場所、認め合う場所を確立することが大事。
- ・主体が市で、市民で、市民の中に事業者があって、常にそれを冷静に見ることのできるチェック機能があると良いのでは。
- ・審議会やサポーターなどチェック機能を位置付けて、常に状況をチェックしている人というのは良い。
- ・市長が変わり、担当が変わっても、常にある方向性をもってくれている第三者、それは審議会でもなく、サポーターでもない人が良いのではないかと思う。この検討会のメンバーが良いのではないかと思う。
- ・形式的に作っているものではない組織にそういう役割を持ってもらい、常に議論が出来て、時代の変化や流れに合わせて流動的になることができるものが良いと思う。その役割はNPOセンターであるようでそうではないと思う。見守ってくれているものという意味。

【その他】

- ・言葉が固い。普通の市民が見たときに表現、言葉がカタイ（難い）。「私たちはこうする～」のように、皆から沸き起こってくるような条例がいいのでは。
- ・「ちいつな（＝地域のつながり推進課）」面白い表現。市民が親しみやすくなり、市民がぐっと近づきやすくなる。そういう柔らかな言葉を大事したい。
- ・身近に感じられる言葉を使う。例えば「地域のつながり推進課で身近な問題を考える」なら「ちいつなでみじもんを考えよう」。
- ・条文の中に、あえて市民を空欄にして自分の名前を入れてもらって、自分事にしてもらう。

- ・鯖江の市民条例はA4に2枚。非常にシンプル。この条例は住民に読んでもらわなければならないので、文章をシンプルにして頁を少なくすることに努めて欲しい。また難しい用語は避ける。
- ・他市は面白くない。どこも皆同じ内容である。
- ・鯖江の条例の言葉の柔らかさや身近さはとてもいいと感じる。
- ・条例は法律用語を使って、とにかく読みにくいものが多い。作る方が成果を表すような頁数の多いものを作りたがるが、それは止めてほしい。分かりやすさを第一に考えてほしい。
- ・鯖江の表現に「教えます、教え合います」、行政と住民が両方に理解出来る言葉を使用している。他市は「～すること」「～をやります」だが、「～し合います」というような表現をしてほしい。
- ・鯖江の条例を借用してかまくら版を作っても良いのでは。
鯖江も鎌倉まで来て説明してくれているのだから、一言借用しますとお断りを入れれば理解してくれるのではないかな。
- ・ほかの自治体が条例を作る際の見本になるようなものを作りたい。
- ・条例をその時代に合ったものにアップデートするための規定を条文化する。
- ・条例をどうやって定めていくか。基本的にはA4で1～2ページで、基本、条例自体は考え方や意識の話になると思う。そういうイメージで良いのかどうか。
- ・考え方、意識がメインの理念的なものが良いと思う
- ・条例の主体がどこにあるのか？「市民」と言った時に、住民と住民でない部分がある、企業市民もある、職員も市民。鎌倉に関わっている人と言う意味で「私たちは～」というのは分かりやすい。
- ・「市民は」で自分の帰属性を感じられるか、というと特にそうは思わない。
- ・横須賀の経験から言うと、条例は市民の、NPOのために作るというけれど、実は職員を動かす為のものでもある。職員のためのものであると思う。
- ・動かない職員がほとんどで、その動く職員に声が伝わった時だけ、話が動いていくことがある。
- ・鎌倉市在住以外の職員の採用が多いが、そういう職員との温度差を感じる。採用時点では市内在住が多いが、家を購入したりすると鎌倉と市外では価格が異なり、出ていく人が増える。
- ・良い提案は外から見た職員の方が良い仕事をすることもあるので、一概には言えない。
両方バランスよく混ざっている方が良い仕事ができる。他所の視点。
- ・街づくりをやっていると意外と市内在住の職員は「動きにくい」という感想がある。市内の職員はしがらみも大きい。
- ・条例の見直しを、一年ごとに見直すという案がある。一年では難しい。三年経たないと成果が出ないことがある。

➤ チーム1ワーク



【基本理念】

- ・対等…×、信頼…○
- ・違いをお互いに理解して尊重、信頼すること！！
- ・フラットで
- ・オープンであること
- ・水平で対等な関係
- ・信頼関係、パートナーとして
- ・鎌倉らしさ
- ・まちづくり
- ・「鎌倉らしさ」をいつも意識して参考にしていくこと…みんなを繋ぐ言葉、共有価値
- ・日常生活の安心、安全な街づくり
- ・鎌倉を好きになる。あなたの好きな鎌倉
- ・鎌倉スピリット
- ・エネルギーとしての鎌倉プライド！良い意味で！！
- ・価値観、課題、楽しいこと、嬉しいこと。市民みんなで共有できることで、協働がスタートする。そのネターつが「鎌倉らしさ」かも
- ・条例は職員の動きを確約するもの。実は裏目的！
- ・寄り添い
- ・手を取り合って市民と市で作り上げていく
- ・市民が何かやってみようと思えるような
- ・みんなが作り上げる
- ・自分たちの手でつくり上げる（or 築いていく）
- ・市民、活動団体、企業、教育機関、行政など、みんなで作る
- ・市民、NPO の意志→市政への参加。
市民への投げかけ、門戸開放←市、行政、施策⇒双方向性を大切に
- ・双方向
- ・支え合い
- ・議会も入れるべき
- ・市民、NPO→事業者→行政→市民 の動きや施策を客観的に、大所高所からチェックする第三者も大切…審議会、サポーター。（今の検討メンバーで!!）（この位置づけも大切）
- ・「市」という生き物はアンハッピーなことにも巡り合う。その時みんなで助け合う。地域力の発揮できるようなスピリッツを！
- ・重点事項…☆考え方意識・環境づくり・支援策
- ・市民、行政、議会、市民団体
- ・条例が出来たら、全戸配布。空欄を作って自分の名前を入れる…自分ごととして確かめよう
例：第2条「鎌倉太郎」はまちづくりの主役は市民であるという思いを共有し、責任と自覚を持って積極的にまちづくりを進めます。
- ・子どもも大人も街も育つ

- ・子どもが育つ、大人が育つ、まちが育つ
 - ・育ち合い
 - ・いつも出てくる「育てる」理念をその意識・心がけ（ソフト）、その仕組み・システム作り（ハード）
 - ・示し方自分の名前「〇〇は～」
 - ・市民に届かないと意味がない
 - ・条例は一つだが、コミュニティ向けに違う表現でわかりやすく示していく工夫を
 - ・条例そのものがアップデートされていくこと
 - ・見直すタイミングを決める
 - ・条例下の計画。規則などでアップデートすると議会の影響を受けない
 - ・ヨソ者の視点
 - ・団体同士のネットワーク
 - ・つながり→アクションへ
 - ・市内在住職員、市外在住職員→両方良い面がある！悪い面も…？
 - ・豊かで生き生き
 - ・誰もが自分らしく暮らせる街
 - ・夢と希望
 - ・魅力と活力
 - ・他の条例との違い
- 例：「まちづくり条例」から学ぶ。必要な位置づけや施策、考え方が明らかになる

【目的】

- ・目的…キーワード「鎌倉らしさ」
- ・主体…市、市民、対等
- ・見てすぐに自分事に出来る呼び方を
- ・市民活動の原点は自治・町内会
- ・防災、防犯に関わるような実生活に誰もがわかりやすい内容
- ・他人事ではなく、自分事と考えること 私自身、あなた自身に訴える、呼びかける
- ・自分事
- ・身近な～ことを守る 自分に近いこと！意識をサイレントマジョリティに実感
- ・みんなの「自分事」に繋がっていく条例になれば良い
- ・他の自治体のモデルになる
- ・市民、行政にとっての理念
- ・歴史、伝統への敬意+新しい価値の創造
- ・自立した市民社会の創造
- ・市民活動の応援
- ・その問題の当事者を中心に
- ・地域、社会課題への気づき（見て見ぬフリをしない）
- ・主語

- ・市と市民が汗を流して成果を実感（協働と共創）
 - ・「市民」という言葉が「いけない言葉」になっているのかも
 - ・市民…個、行政…団体、事業者…団体、NPO…団体 でも意識すべきは個人では？
 - ・表現上…市民＝市民みんな、市＝市、職員 といった個人帰属性を高めた方が他人事にはならないかも…
 - ・主語が「市民、みんな」でありたい。常に自分事として考えらるように
 - ・条例の価値を示せる？それなら使おう！ありがたみ！＝存在価値、利用価値あり
 - ・目的理念→条例が何を生み出すか、条例で何ができるようになるか、条例が町をどうよくしてくれるか、を市民目線で表現できると良い
 - ・「地域」の定義って難しい一面も…考えるきっかけにしよう！
 - ・鯖江の条例を借用し鎌倉らしくまとめる
 - ・「ちいつな」意味の分かりやすい愛称…案外良い！
 - ・対象（コミュニティ）合わせた伝え方でPR
 - ・情報共有、合意形成、意志疎通、公共本意・・・といったキーワードを大切にできるとよいかも
 - ・心配り、気配り 相手の立場になれるか？想像力／創造力も重要！
 - ・表現 鯖江のように 教え合います。進めます。市民を念頭においたものにする
 - ・難しい用語を多用しない
 - ・鯖江 A4 2枚 非常にシンプル 頁が多いと市民は読まない
 - ・この条例はー →私たちは…
 - ・鯖江のように分かりやすい文章で
 - ・「協働」が分かりにくいかも
 - ・短い言葉で身近に。「ちいつなでみじもん を考えよう」
- 訳：地域のつながり課で身近な問題を考える

[illegible]

- ・市民がまとまった力←一人一人が担えることに参加する
- ・市も市民も事業者も皆が担い手（自分ごと）
- ・でもそれぞれの役割が違う→それを明確化にする条例
- ・やる気をみんなでサポート
- ・一つの事業に皆の力
- ・他社の活動を応援する
- ・立場を越えての一体感（行政も市民も）

- ・市民が主役
- ・市民が担い手
- ・「やりたい」と思った人がやりたいことを出来る街
- ・自分ごと
- ・問題を共有する
- ・市民の範囲を広げる
- ・地域住民も市民、遠くの支援者も市民

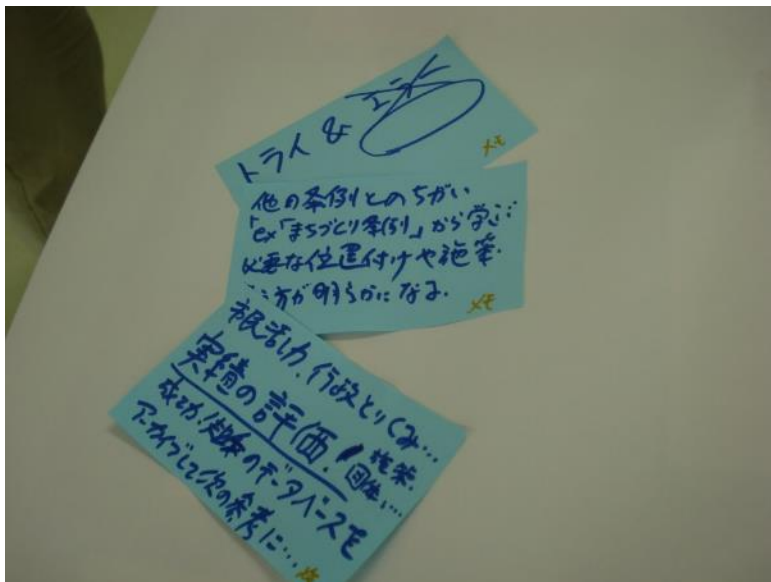
【育つ環境】

- ・育つ環境
- ・育つ育てる、人、まち、団体、畑づくり
- ・参画→協働→その先にあるものは？
- ・協働をもっと継続に向けて
- ・協働には継続も必要…後継者、資金 etc
- ・育てる事業…人件費もみてほしい。 } → お金
- ・評価を明らかにして「ほめる」 → 評価
- ・条例提案者は、市民、行政、議員であるような行政、職員の姿勢を第一に示す
- ・“対等ではなく” 格差、体力を認識して、施策を進める
- ・施策の“解放” “開放” を場と職員

【鎌倉らしさ】

- ・これまでの蓄積、発展
- ・試験的、実験的モデル
- ・トライ&エラー→トライ&トライが許される
- ・共通の夢
- ・皆が輝くための条例
- ・市民が輝けるまちづくり
- ・行政→市民活動が輝けるように

※発表後追加



- ・他の条例とのちがい
ex「まちづくり条例」から学ぶ必要な位置付けや施策・考え方が明らかになる
- ・市民活動、行政とりくみ…実績の評価！施策、団体…
成功、失敗のデータベースをアーカイブして次の参考に…
- ・トライ&〇〇